

【概要版】

雲南市立病院総合診療専門研修プログラム



※詳細は「雲南市立病院総合診療専門研修プログラム（2017版）」を参照

【研修に関する問い合わせ先】

雲南市立病院 地域医療人育成センター 電話番号：0854-43-2441

事務局 勝部琢治

はじめに

雲南市立病院は島根県東部の雲南市を含む雲南2次医療圏（東京23区と同等の土地面積、圏域住民約6万人）の地域中核病院であり、地域に根差したプライマリ・ケアから高度医療、さらには在宅医療や終末期医療まで、幅広い医療を展開しています。

当院では、医師をはじめとする医療人材不足を本質的に解消するため、「地域医療人育成センター」を開設し、研修医の指導、医学生・看護学生の実習、高校生・中学生等の職場体験セミナーなどの事業を実施し、これからの地域医療を担う人材を育成しています。

また、雲南圏域の疾病に幅広く対応できる総合診療を目指し、平成22年より「地域総合診療科」を開設。総合診療に外科の要素を取り入れた総合診療医の育成という独自の形態にも積極的に取り組んでいます。

研修目標

当院のプログラムの特徴は、一般的な総合医養成プログラムが内科系医師養成のものであるのに対し、外科系の知識や技術も兼ね備えた総合医・家庭医の育成を目指しています。

当院が目指す医師像

- ① 地域の特性を十分に理解した上で、診療科を問わず患者のあらゆる健康に関する問題に対応できる医師
- ② 疾病による身体の変化だけでなく、心のケアや療養環境まで気を配り、患者・家族と一緒にあってあらゆる問題に対応できる医師

※ 本プログラムの特徴として、中山間地域の限られた医療資源の中で、NPO/行政/住民自治組織等と連携しながら、地域包括ケアシステムのマネジメントやリーダーシップが取れる医師を質高く育成することを目標にしています。そのため、中山間地域での研修だけでなく選択肢として海外での保健医療に従事できる期間も設け、医療資源やマンパワー不足の現場で活躍できるマインドと実践能力を伸ばす機会を整えています。

※ 後期研修及び後期研修以降のキャリアとして総合診療専門医を目指す医師のサポート体制として、院内の各専門科の医師との相談や連携により必要な知識や技術の向上を支援しています。

研修期間

医師初期臨床研修修了後3年間

●総合診療専門研修Ⅰ（6ヶ月）

医療圏域内の診療所を初めとした研修連携施設での総合診療を中心に経験を積んでもらいます（研修施設は選択）。各種検査、健診、ドック、学校保健医、産業医、往診、ケア会議への出席など幅広く研修の機会があります。地域に根差した医療を体験する中で、医療資源の少ない地域で活動するための実践能力を養います。

●総合診療専門研修Ⅱ（12ヶ月）

雲南市立病院で地域総合診療科、救急、外科の外来診療及び入院診療を行います。特に地域総合診療科と救急においては鑑別診断を中心とした診断法を身につけ、地域の特性を十分に理解したうえで、医療上のあらゆる問題に対応した適切なトリアージを行う能力を養います。また、救急外来患者の診療を行い、救急疾患の初期対応について経験します。雲南圏域の拠点病院での研修のため、患者の疾病による身体の変化だけでなく、心のケアや療養環境にまで心を配り、医療・保健・福祉等の地域資源を活用し、地域包括ケアを実践する力を養います。

●内科研修（12ヶ月）

雲南市立病院内科または県内東部の協力病院（島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院）で研修を行います（研修施設は選択）。内科外来・入院、救急外来等で臓器別診療・総合診療を行うことにより、実践能力・対応能力を養います。

●小児科研修（3ヶ月）

雲南市立病院小児科または研修連携施設（島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院）で診療を行います（研修施設は選択）。小児救急をはじめ、外来・病棟研修、小児保健活動等を通して、小児に関わる多彩な健康問題に対応できる知識・技術を習得します。

●救急科研修（3ヶ月）

救急救命センターが設置されている県内東部の協力病院（島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院）で研修を行います（研修施設は選択）。救急専門医の指導の下、各科専門医と連携しながら1次救急から3次救急までの幅広い救急医療を学び、的確な診断能力・初期対応能力を養います。

- エレクトティブ研修（6ヶ月）※内科と総合診療研修Ⅱを兼ね合わせて研修した場合※

研修医のニーズに基づく自由度の高い研修が可能です。研修施設や科は個別に設定します。これまでの研修で不十分だった分野やさらに関心が生じた分野を補完します。選択科としては、雲南市立病院の外科（初期研修で外科を選択してない専攻医は推奨）、整形外科、精神科、皮膚科、耳鼻科、また在宅から入院まで一貫して質の高いリハビリテーションを提供しているリハビリテーション診療科での研修が可能です。また、緩和ケアも院外で研修可能です。専攻医の相談に応じ、意向を踏まえていきます。

以上、計3年間

〈選択オプション〉 ※上記専門研修（3年間）終了後

- 国際保健研修（12ヶ月）

上記3年間の研修の他、国際保健に従事できる機会（1年間）も設けています。国際保健や地域医療の現場で活躍したい医療従事者の支援を行っている特定非営利活動法人と提携しており、海外の医療資源やマンパワー不足の地域で研修を行うことも可能です。この研修により地域包括ケアシステムのマネジメント能力やリーダーシップを取るための能力を養い、地域医療の現場で活躍できるマインドと実践能力を伸ばします。

研修施設

- 島根大学附属病院（内科、救急科、小児科）
- 島根県立中央病院（内科、救急科、小児科）
- 松江市立病院（内科、小児科）
- 松江赤十字病院（内科、小児科）
- 大曲診療所（総合診療Ⅰ）
- 飯南町立飯南病院（総合診療Ⅰ）
- 掛合診療所（総合診療Ⅰ）
- 隠岐島前病院（総合診療Ⅰ）
- 加藤病院（総合診療Ⅰ）
- 雲南市立病院（総合診療Ⅱ、内科、小児科）

〈領域別〉

- 雲南市立病院（一般外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻科、リハビリテーション科）
- 松江市立病院（緩和ケア・ペインクリニック科）

指導体制に関する特徴

研修の特徴

1. 家族ケア・カンファレンス

開業医、在宅スタッフやソーシャルワーカー等も参加し、患者のケアについて、家族を含めた心理社会的な問題も考慮しながら検討します。このカンファレンスは研修医がマネジメントします。

2. 県内家庭医療セミナーの活用

月1回開催されている、家庭医療セミナーにテレビ会議システム等で参加できます。セミナーは、家庭医療学の理論的学習と症例からの実践的学びを結びつけて行います。また、リサーチセミナーも実施しており、プライマリ・ケアのリサーチを推進します。

3. 外部アドバイザーの招聘

研修の質を保証するため、家庭医療・医学教育分野の経験豊かな先生方を招聘し、研修内容や方法に関するフィードバックをもらうことが出来ます。また、他の研修施設との研修交流により、研修施設の垣根を越えてフィードバックし合える環境作りをサポートします。

評価方法

1. 外来・診療振り返り

診療の振り返りは診療現場でその都度行われています。研修医が経験した症例について、指導医が患者の評価やケアの方法などに対してフィードバックを行います。また、適宜、指導医や研修医同士で外来診療の状況を確認し、患者情報の共有、患者ケアの検討はもちろん、相互的に総合医療・家庭医療の知識・技術を高め合います。また医療面接の技能と態度を養います。

2. 経験省察研修事例検討会

本プログラムで専門医を取得するには、経験省察研修により必要な臨床能力を示すことが求められています。毎月開催する事例検討会は、研修医が担当する事例について、指導医らと共にディスカッションし、家庭医療学的な視点から考察し、経験省察研修録作成の支援をします。

3. レジデントデイ

月1回、レジデントデイを開催します。振り返りでは、研修ログ、セルフアセスメント用紙をもとにした自己評価を行い、他者からのフィードバックをもらいます。また、適宜 Significant Event Analysis（重大な事項と捉える診療の振り返り）、クリニカルジャズなどを行い、総合診療医集団としての診療の質向上を図ります。

4. 学会参加・発表

2回/年のプライマリ・ケア連合学会への参加と1回/年の学会、その他関連学会等で発表し、研究や発表についての支援をします。その他、関連学会に参加・発表や県内外の学会等での発表も支援します。

※総括的評価（評価時期・評価者・評価方法） 研修の節目には、指導医や地域医療人育成センターを中心に研修目標の到達度に対する総括的評価を行います。看護師やリハビリテーション技師、ケースワーカー、ケアマネージャーなどの他職種も参加し、多面的な評価を行います（360°評価）。

※研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー） 月毎に指導医による5段階評価を行い1点（不可）が全体の5%未満であることを修了の要件とする。ポートフォリオ事例報告、360°評価を中心に総括的評価を行い、修了認定はプログラム責任者が行う。

研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	雲南市立病院											
	総合診療専門研修Ⅱ											
2年目	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月											
	県立中央病院or島根大学			雲南市立病院（高次病院可）			雲南市立病院（高次病院可）					
	救急科			小児科			内科					
3年目	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月											
	雲南市立病院（高次病院可）						診療所or中小病院（選択）					
	内科						総合診療Ⅰ					

総Ⅰ：掛合診療所、大曲診療所、飯南病院、隠岐島前病院、加藤病院

総Ⅱ：雲南市立病院

救急：県立中央病院、島根大学附属病院

内科、小児科：雲南市立病院（高次病院（県立中央病院、島根大学附属病院、松江赤十字病院、松江市立病院）での研修も可）

地域医療に配慮し、一年以上の僻地等の専門研修が含まれるものとする

総Ⅰ：掛合診療所、大曲診療所、飯南病院、隠岐島前病院、加藤病院

総Ⅱ・内科：雲南市立病院

救急は県立中央病院、島根大学附属病院から選択

小児科は雲南市立病院（高次病院（県立中央病院、島根大学附属病院、松江赤十字病院、松江市立病院）での研修も可）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	雲南市立病院											
	内科											
2年目	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月											
	雲南市立病院						雲南市立病院（高次病院可）			県立中央病院or島根大学		
	総合診療Ⅱ						小児科			救急科		
3年目	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月											
	診療所or中小病院（選択）						診療科により選択					
	総合診療Ⅰ						選択科					

研修プログラム運営体制

研修プログラム責任者：大谷順（雲南市立病院院長）

特任指導医：大谷順（地域総合診療科）

プログラムの質の向上・維持の方法

プログラムの質向上・維持のための情報については、指導医・地域医療人育成センター・総合医家庭医研修プログラムワーキングチームが集約・検討・協議を行い、プログラムの改善につなげていきます。

研修医との双方向評価を通じて、プログラムを適宜改善していきます。

他の後期研修プログラムを実行している医療機関と定期的に意見交換を行い、プログラムの改善を行います。

総合診療分野の経験豊富な先生方からプログラムを評価してもらい改善を行います。

本プログラムに関わる指導医、また初期臨床研修指導にかかわる指導医も含めてプライマリ・ケア連合学会主催の研修会への積極的な参加を促し、指導医のレベルアップをはかります。

サポート体制

プログラムの質向上・維持のための情報については、指導医・地域医療人育成センター・総合医家庭医研修プログラムワーキングチームが集約・検討・協議を行い、プログラムの改善に努めます。

女性専攻医が働きやすい環境を整備するため、院内保育所・女性医師専用当直室を完備し、WLB委員会を設置し検討を行っていきます。